

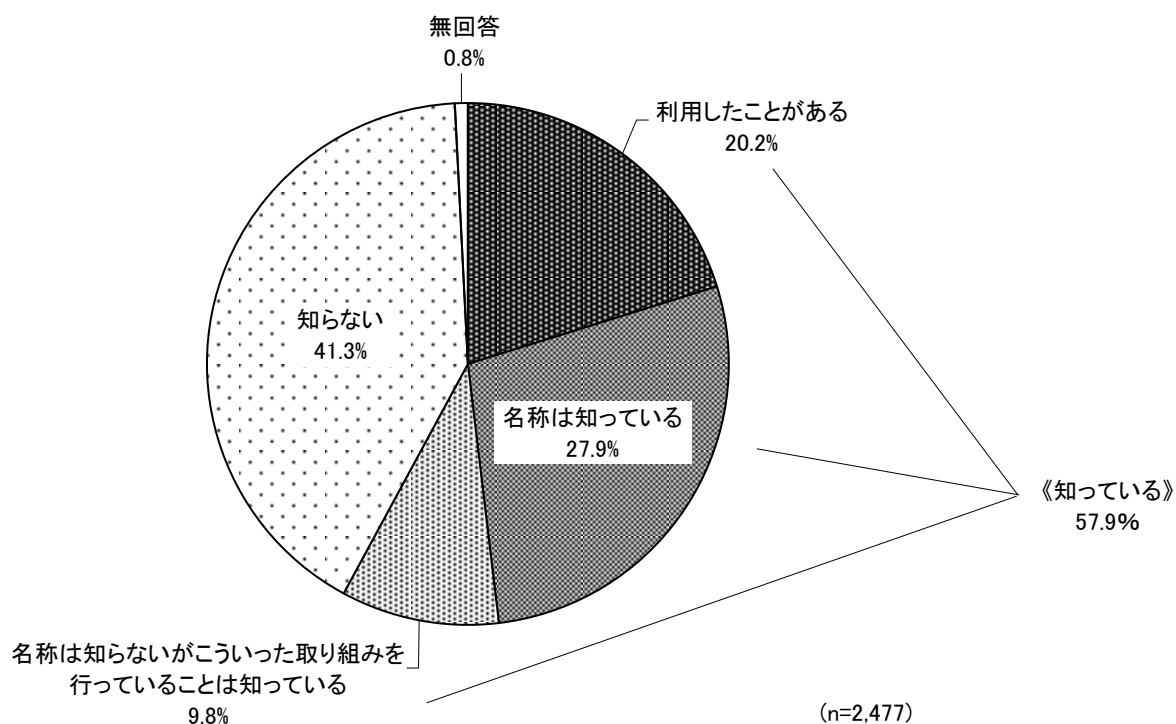
5. 福祉と医療

(1) 「福祉の相談窓口」の認知度

◎ 《知っている》が6割近く、「利用したことがある」は2割

問12 あなたは、区内28地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して様々な福祉の相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（〇は1つ）

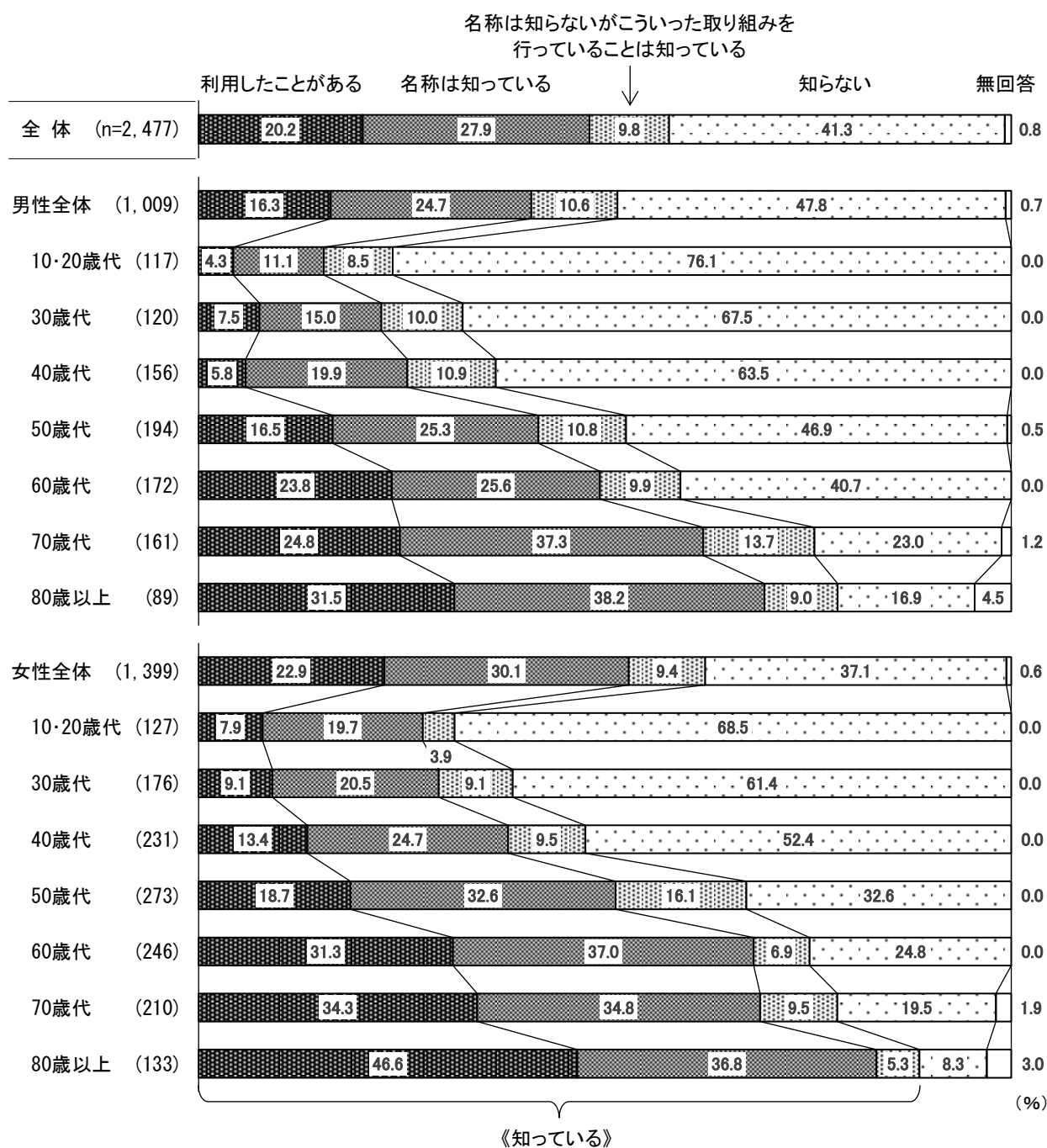
図5-1-1



「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（27.9%）、「利用したことがある」（20.2%）、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」（9.8%）を合わせた《知っている》（57.9%）が6割近く、「知らない」（41.3%）が4割を超えている。

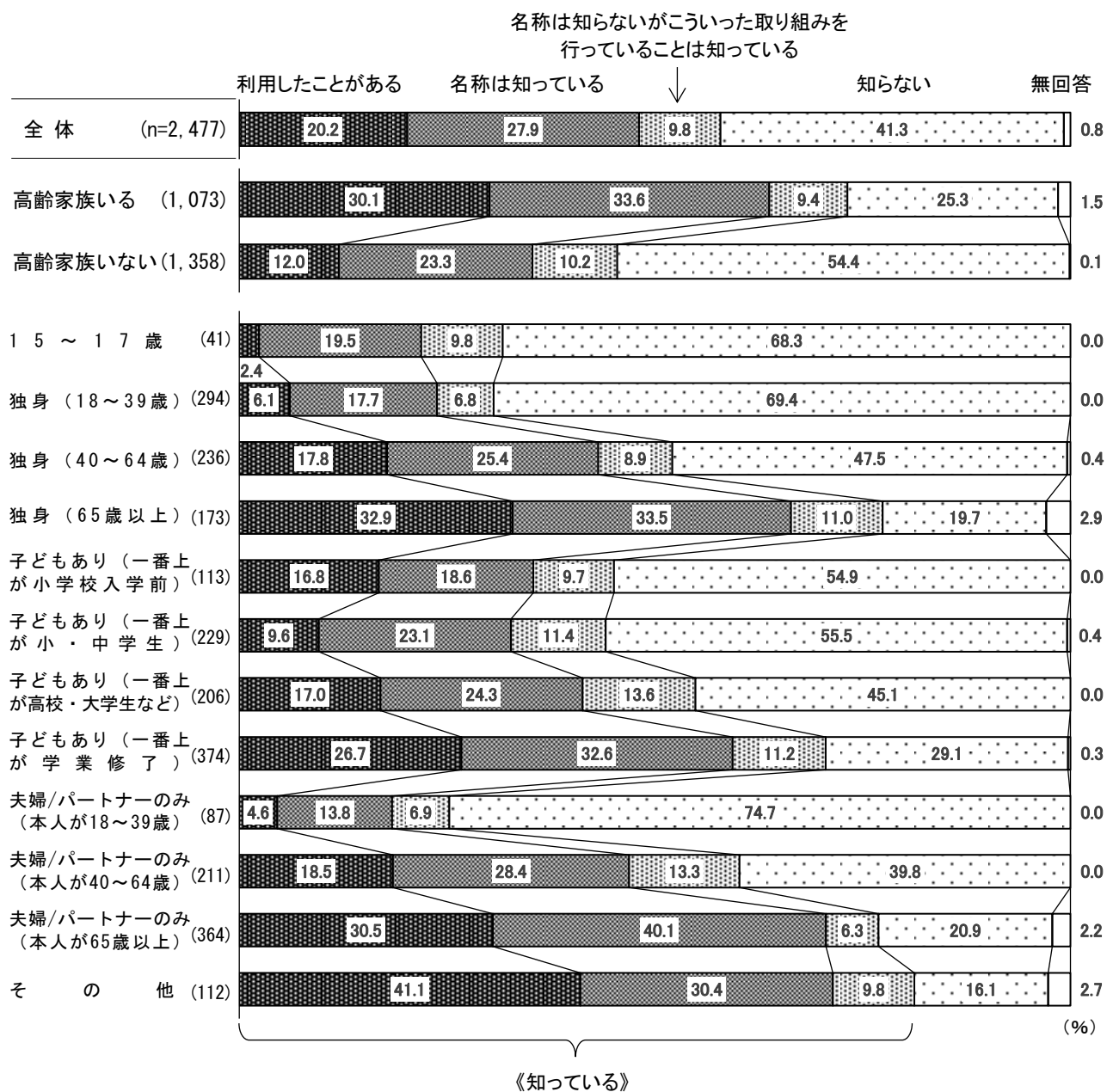
（図5-1-1）

図 5 - 1 - 2 「福祉の相談窓口」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は男女ともに年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性の80歳以上で9割近く、男性の80歳以上、女性の70歳代で8割近くとなっている。「利用したことがある」は女性の80歳以上で5割近く、女性の70歳代で3割半ば、男性の80歳以上、女性の60歳代で3割を超えている。（図5-1-2）

図 5 - 1 - 3 「福祉の相談窓口」の認知度（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「利用したことがある」が3割、「名称は知っている」が3割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

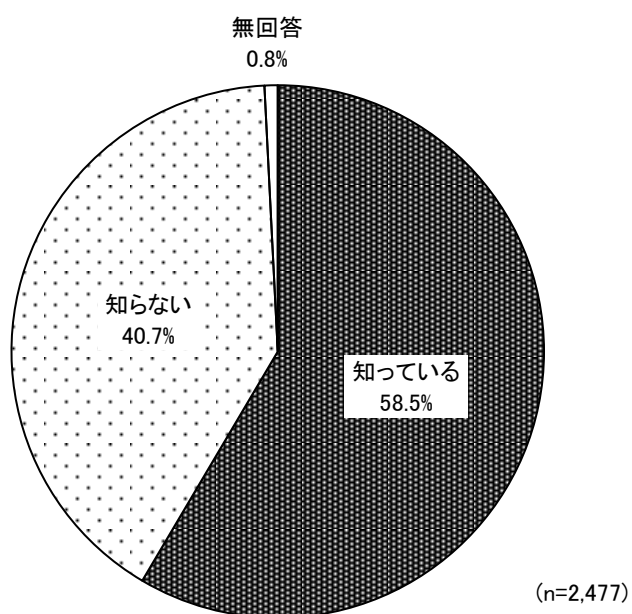
ライフスタイル別にみると、「利用したことがある」はその他で4割を超え、独身（65歳以上）で3割を超え、夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）でほぼ3割となっている。《知っている》はその他で8割を超え、独身（65歳以上）と夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で8割近く、子どもあり（一番上が学業修了）でほぼ7割となっている。（図5-1-3）

(2)「在宅医療」の認知度

◎「知っている」が6割近く

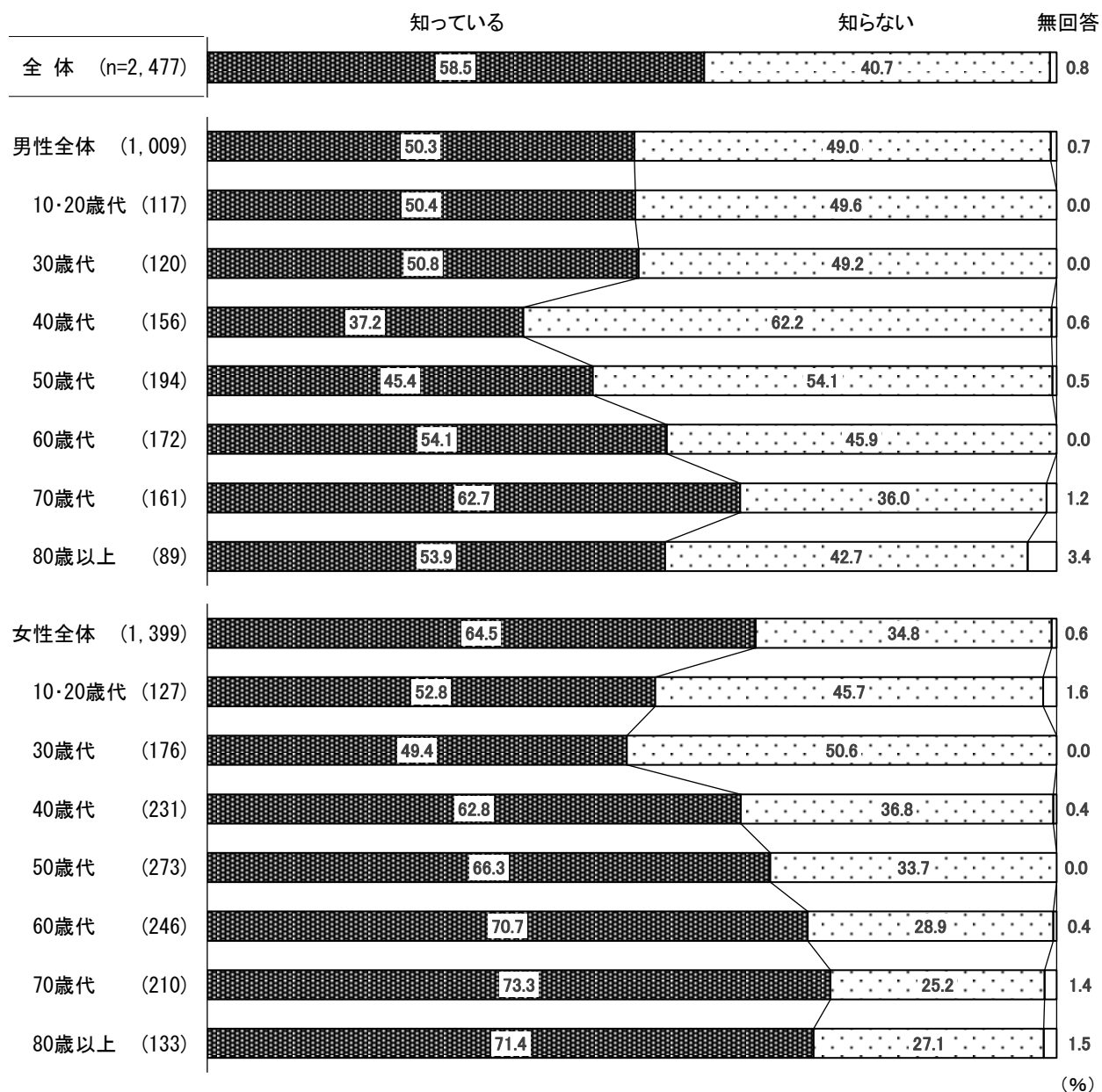
問13 あなたは、医療機関への通院ができなくなったときなどに、医師や看護師などの医療関係者が訪問することで、自宅等でも医療を受けられる「在宅医療」を知っていますか。
(○は1つ)

図5-2-1



「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「知っている」(58.5%)が6割近く、「知らない」(40.7%)がほぼ4割となっている。(図5-2-1)

図 5 - 2 - 2 「在宅医療」の認知度（性・年齢別）

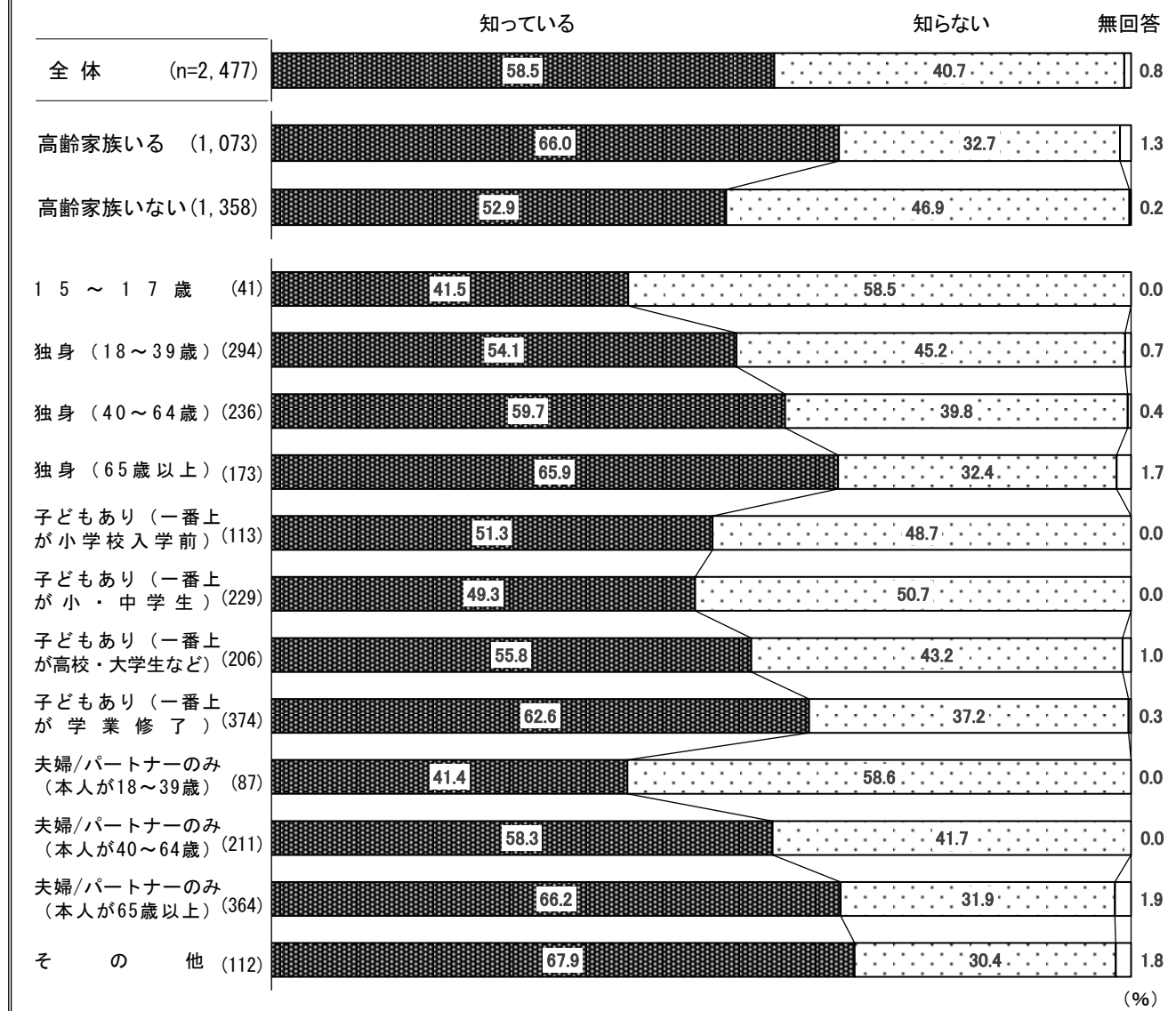


(%)

性・年齢別にみると、「知っている」は男性より女性の方が高い傾向にあり、女性は40歳代以上で6割台～7割台となっており、男性で6割を超えているのは70歳代のみとなっている。

(図 5 - 2 - 2)

図 5 - 2 - 3 「在宅医療」の認知度（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、「知っている」は高齢家族がいる世帯が6割半ば、高齢家族がいない世帯は5割を超えている。

ライフスタイル別にみると、「知っている」はその他で7割近く、独身（65歳以上）と夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で6割半ば、子どもあり（一番上が学業修了）で6割を超えている。「知らない」は15～17歳と夫婦/パートナーのみ（本人が18～39歳）とで6割近くとなっている。

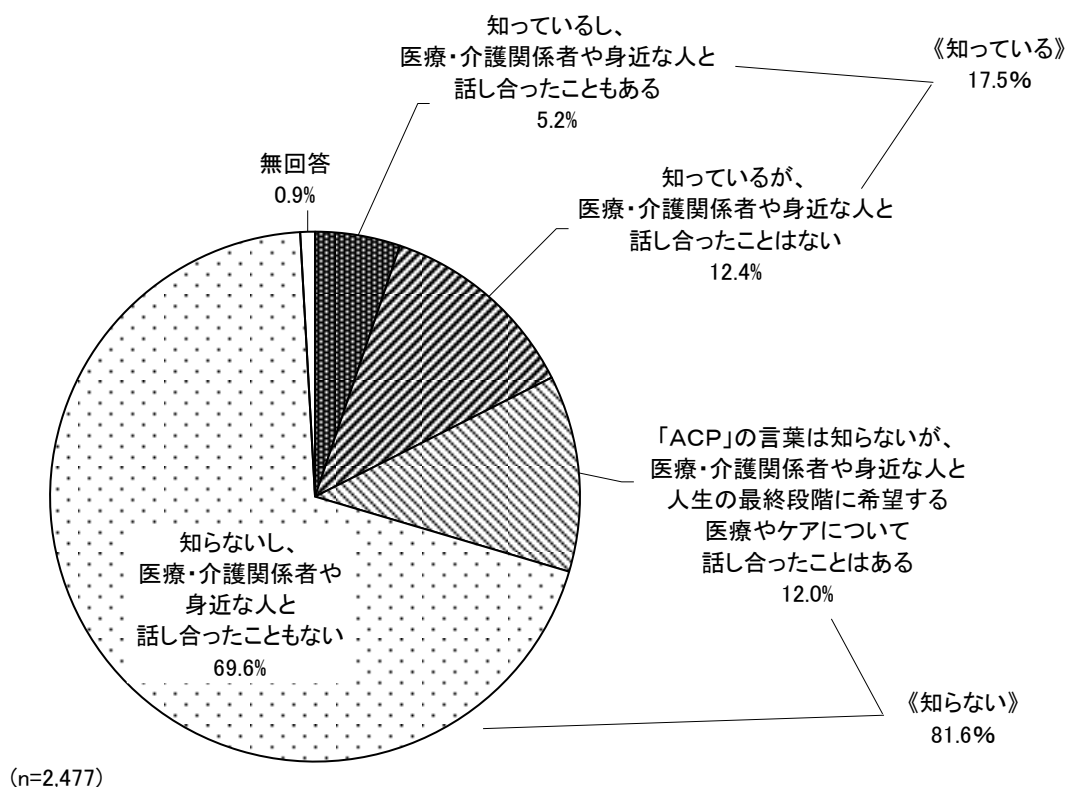
(図 5 - 2 - 3)

(3)「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度

◎《知らない》が8割を超え、《知っている》は2割近く

問14 あなたは、「ACP (アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)」を知っていますか。
(○は1つ)

図5-3-1

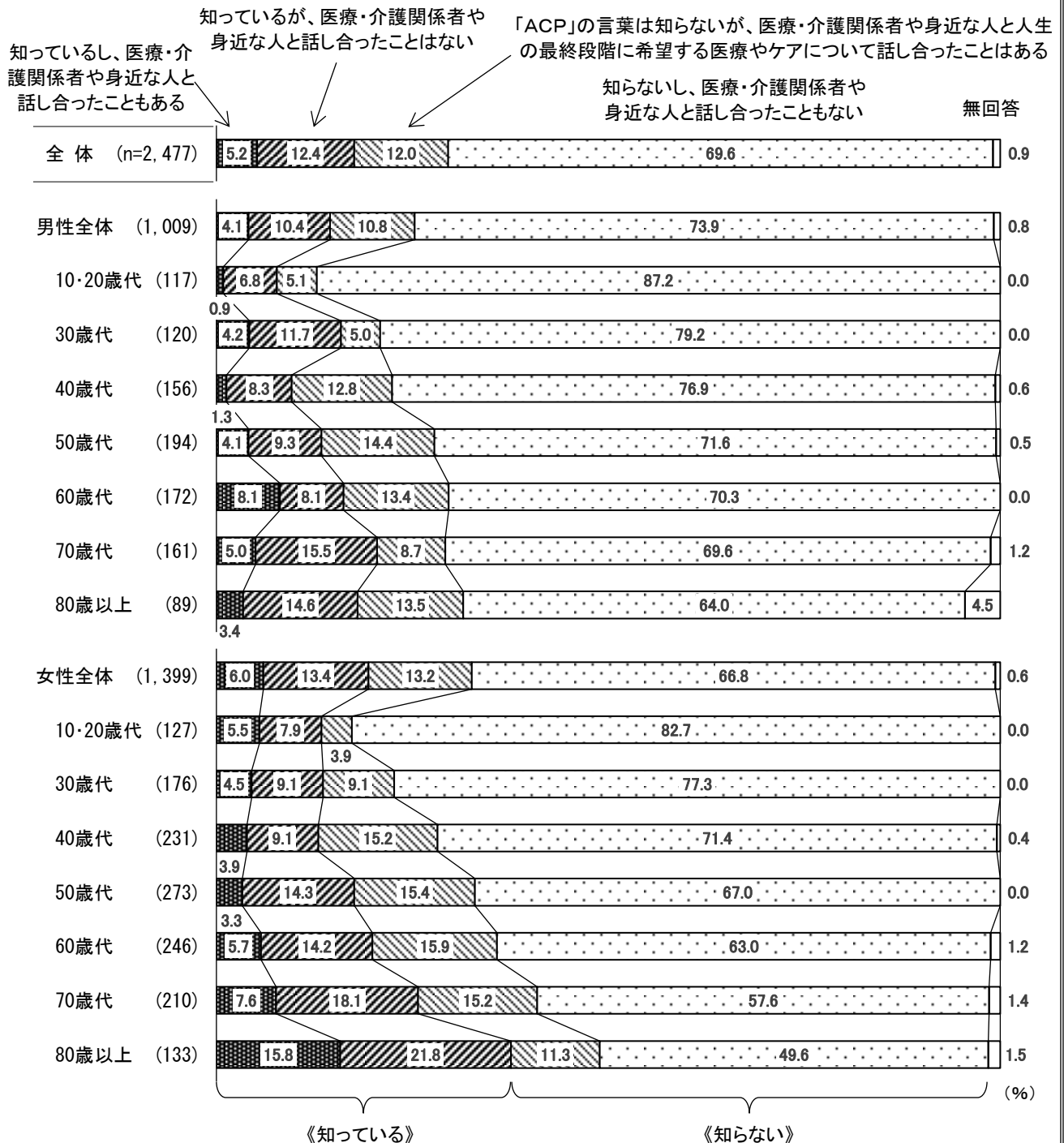


「ACP」の認知度を聞いたところ、「知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない」(69.6%)が7割で最も高く、「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する医療やケアについて話し合ったことはある」(12.0%)を合わせた《知らない》(81.6%)は8割を超えている。「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」(5.2%)と「知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない」(12.4%)を合わせた《知っている》(17.5%)は2割近くとなっている。

「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」と「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する医療やケアについて話し合ったことはある」を合わせた《話し合ったことがある》(17.2%)は2割近くとなっている。

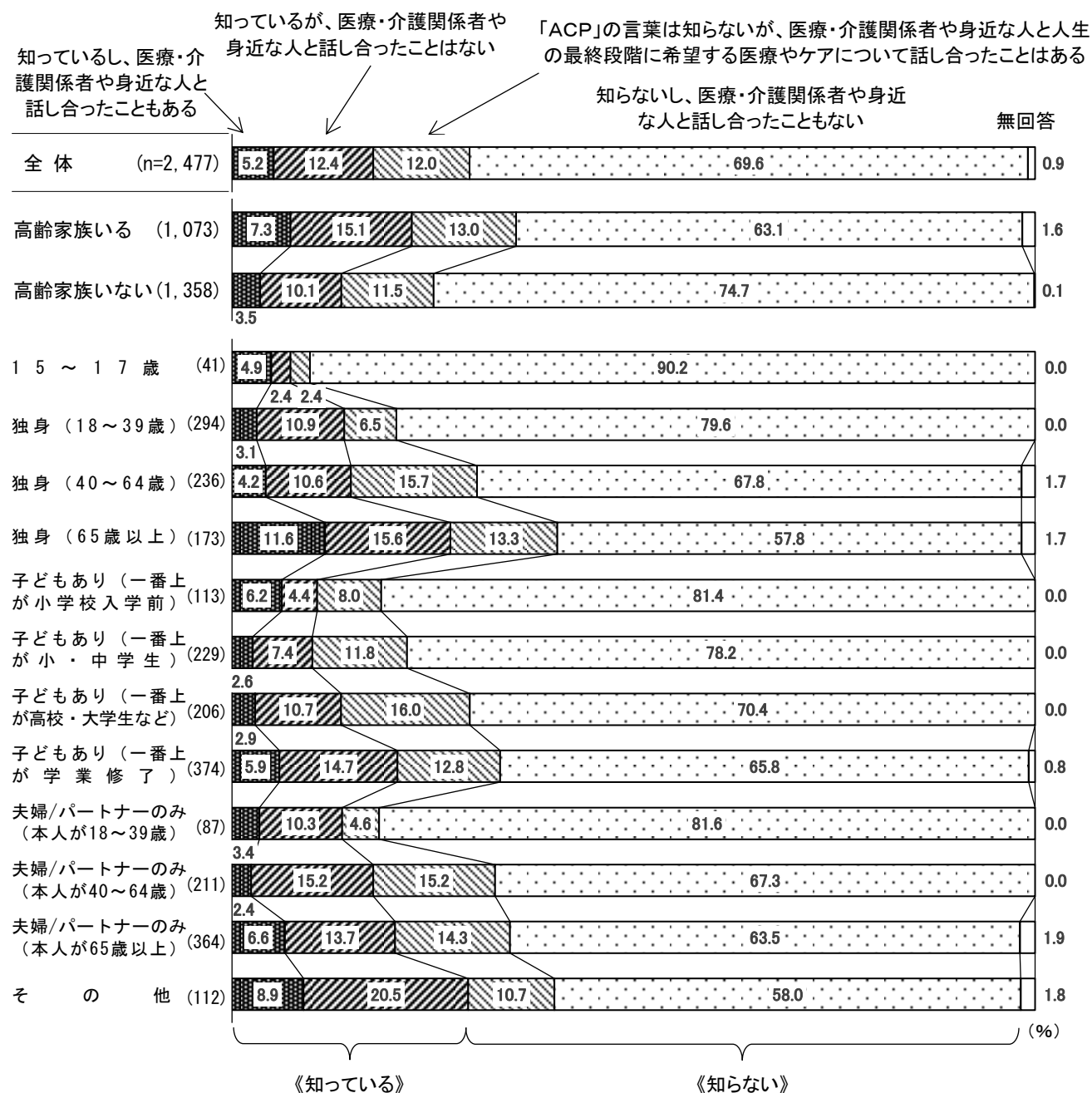
(図5-3-1)

図 5-3-2 「ACP」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知らない》は男性の10・20歳代で9割を超え、男性の40歳代で9割、女性の10・20歳代と40歳代で9割近く、男性の30歳代と50歳代、女性の30歳代で8割半ばとなっている。《知っている》は女性の80歳以上で4割近く、女性の70歳代で2割半ば、男性の70歳代でほぼ2割、女性の60歳代で2割となっている。《話し合ったことがある》は女性の80歳以上で3割近く、男性の60歳代、女性の60歳代と70歳代で2割を超えている。（図5-3-2）

図5-3-3 「ACP」の認知度（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は《知っている》が2割を超え、《話し合ったことがある》が2割で、高齢家族がいない世帯より高い。

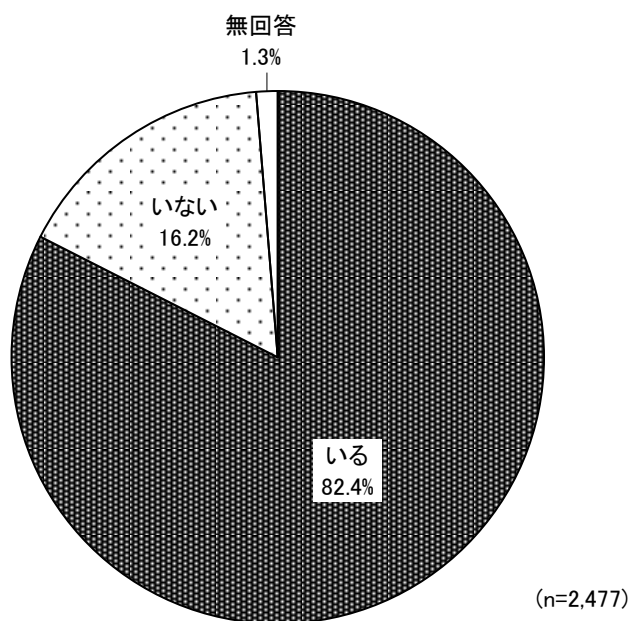
ライフスタイル別にみると、《知らない》は15～17歳で9割を超え、子どもあり（一番上が小・中学生）で9割、子どもあり（一番上が小学校入学前）でほぼ9割となっている。《知っている》はその他で3割、独身（65歳以上）で3割近くとなっている。《話し合ったことがある》は独身（65歳以上）で2割半ば、夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）でほぼ2割、独身（40～64歳）とその他で2割となっている。（図5-3-3）

(4) 身近な相談相手の有無

◎「いる」が8割を超える

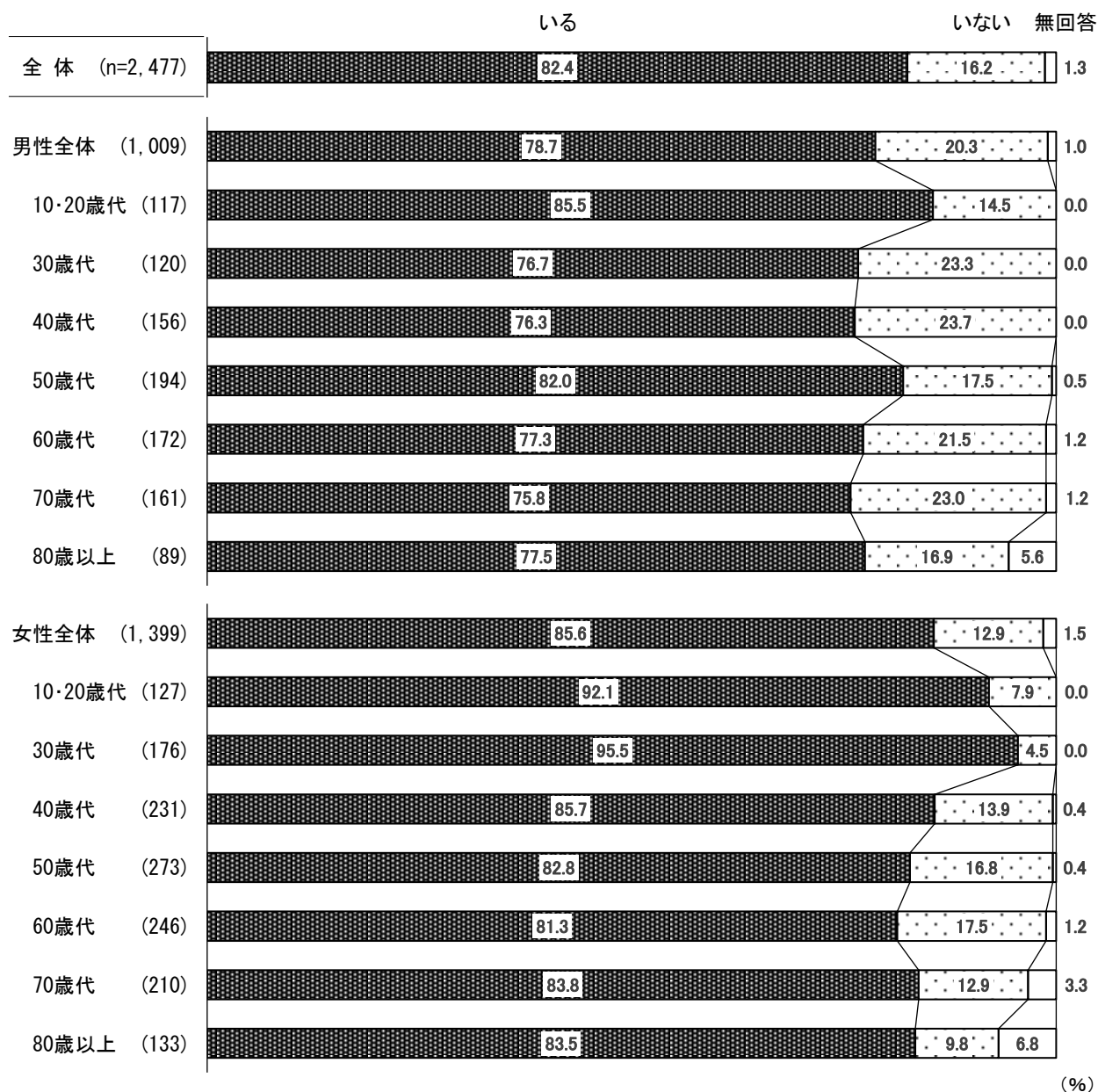
問15 あなたは、あなたに不安や悩みが生じた場合、身近に相談相手はいますか。(○は1つ)

図5-4-1



不安や悩みが生じた場合、身近に相談相手がいるかを聞いたところ、「いる」(82.4%)が8割を超え、「いない」(16.2%)が1割半ばとなっている。(図5-4-1)

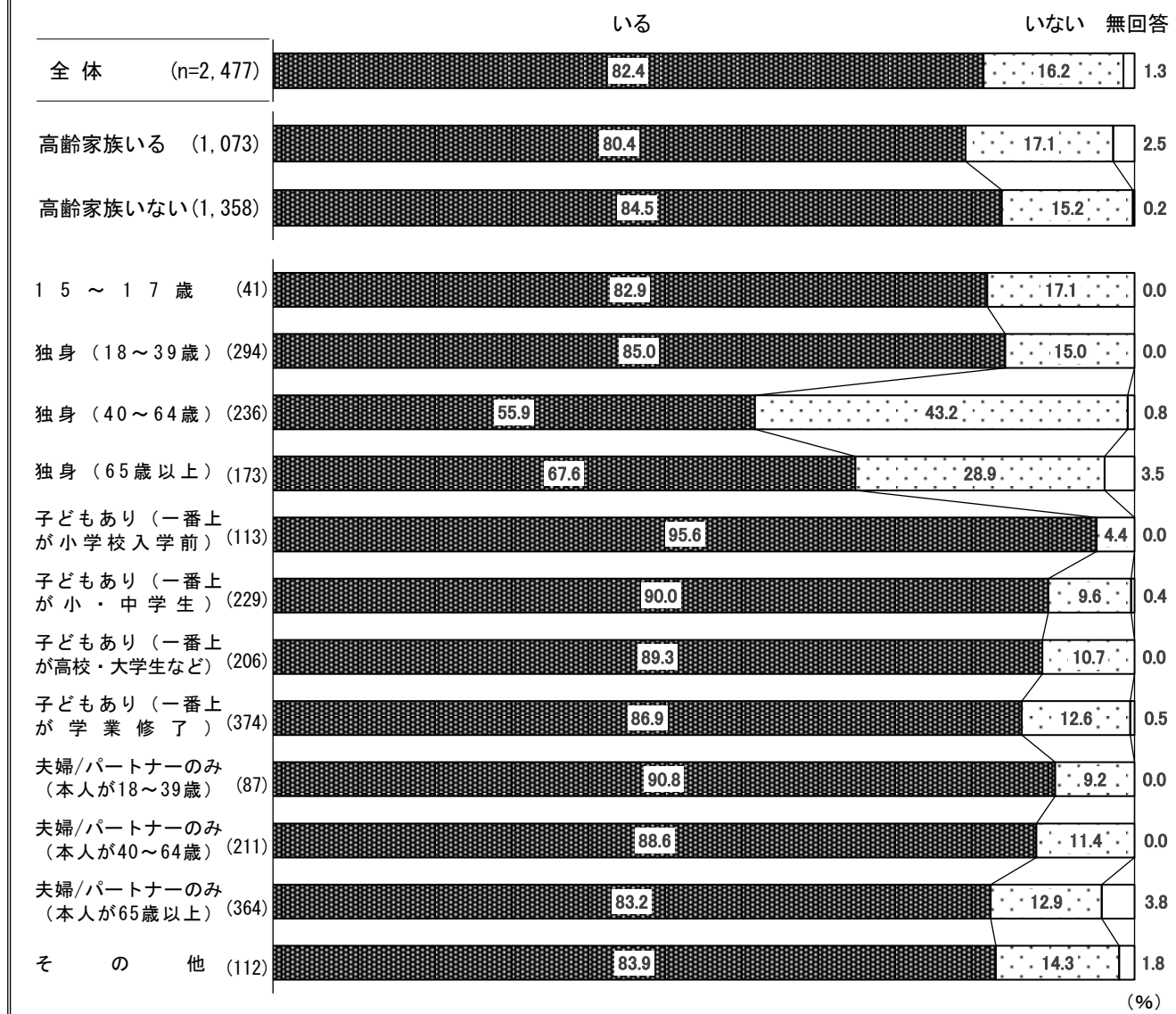
図 5 - 4 - 2 身近な相談相手の有無（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、「いる」は男性より女性の方が高く、女性の30歳代で9割半ば、女性の10・20歳代で9割を超えている。「いない」は男性の30歳代、40歳代、60歳代、70歳代で2割を超えている。（図5-4-2）

図5-4-3 身近な相談相手の有無（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、「いる」は高齢家族がいない世帯が8割半ば、高齢家族がいる世帯は8割となっている。

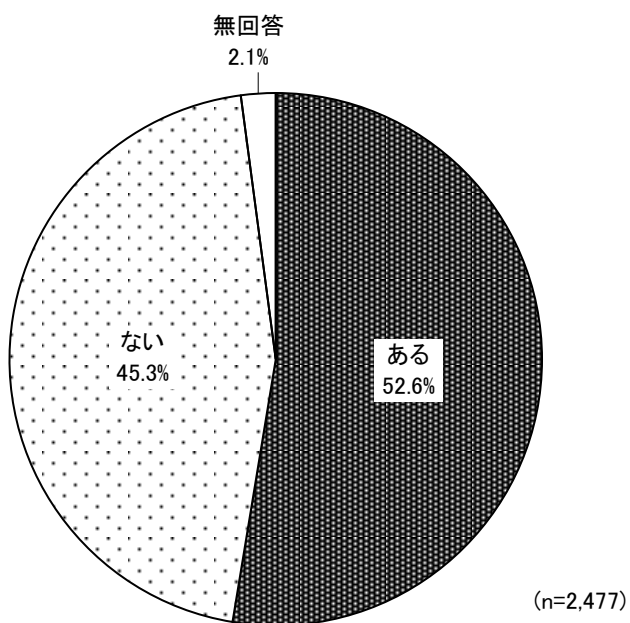
ライフスタイル別にみると、「いる」は子どもあり（一番上が小学校入学前）で9割半ば、子どもあり（一番上が小・中学生）、子どもあり（一番上が高校・大学生など）、夫婦/パートナーのみ（本人が18～39歳）で9割前後となっている。一方、「いない」は独身（40～64歳）が4割を超え、独身（65歳以上）が3割近くとなっている。（図5-4-3）

（５）日常生活の不安や悩みの有無

◎「ある」が５割を超える

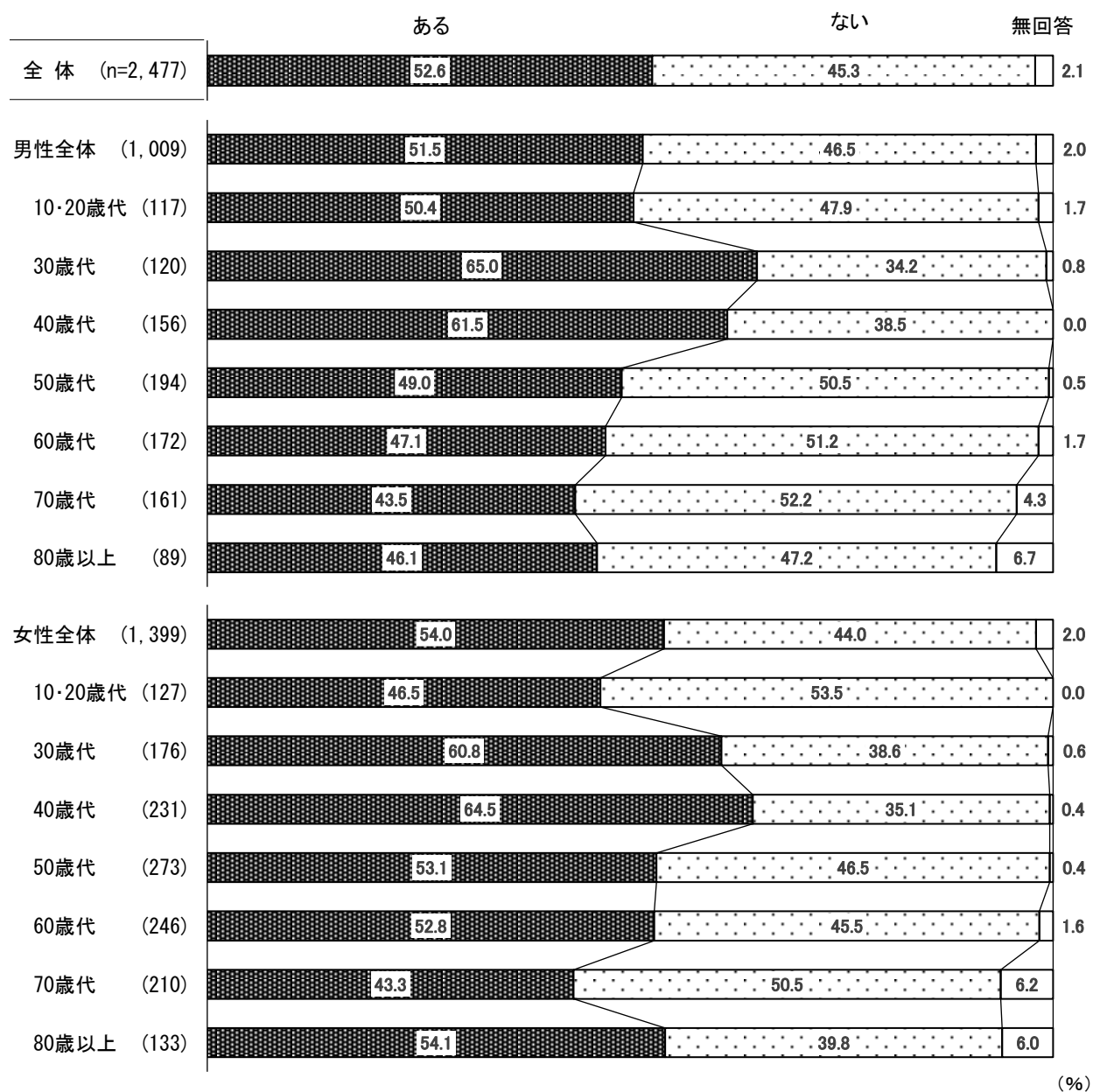
問１６ あなたは現在日常生活において不安や悩みを感じることはありますか。（○は１つ）

図５－５－１



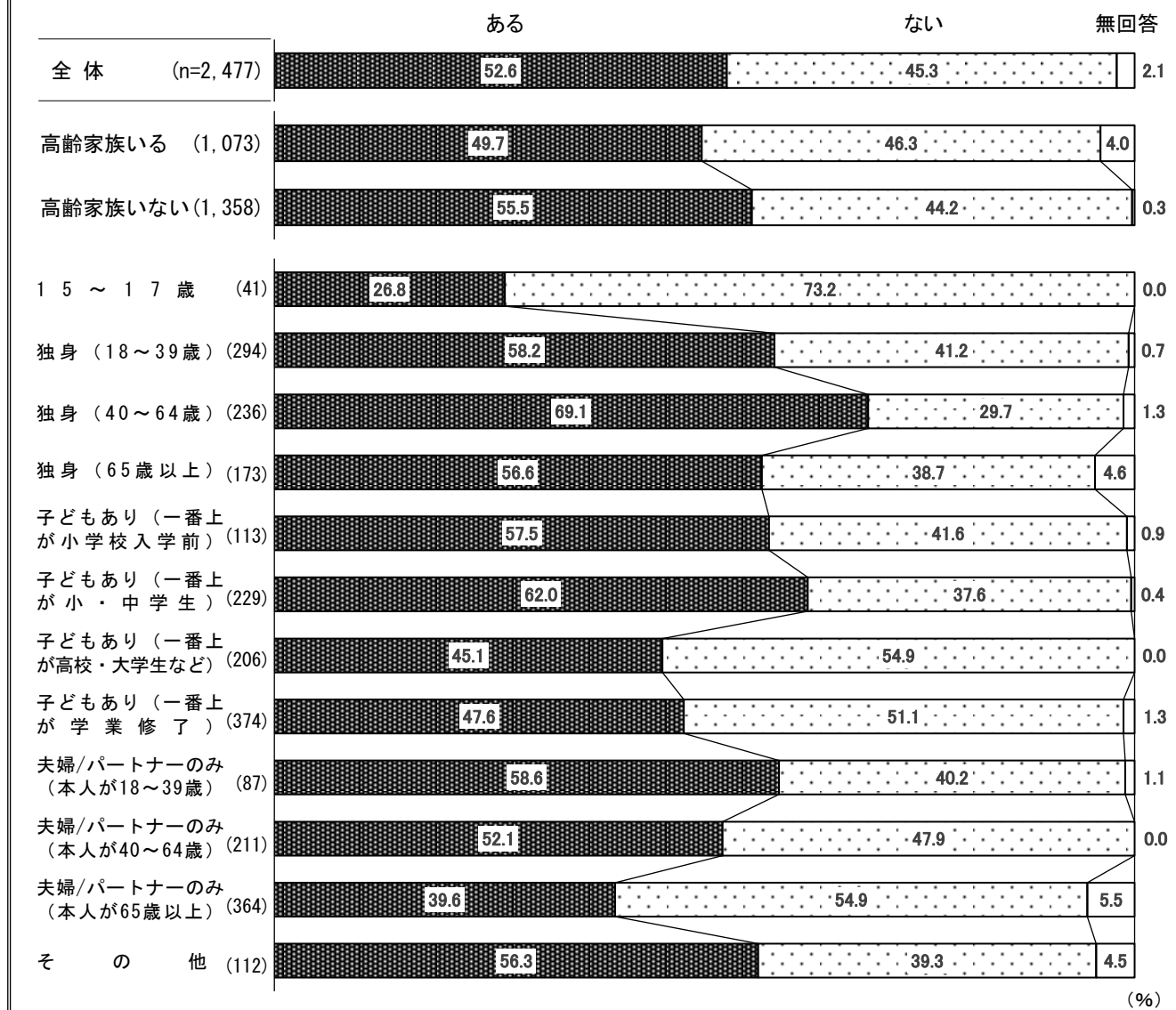
現在、日常生活において不安や悩みを感じることはあるかを聞いたところ、「ある」（52.6％）が５割を超え、「ない」（45.3％）が４割半ばとなっている。（図５－５－１）

図 5 - 5 - 2 日常生活の不安や悩みの有無（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「ある」は男性の30歳代、女性の40歳代で6割半ば、男性の40歳代で6割を超え、女性の30歳代でほぼ6割となっている。「ない」は男性の60歳代と70歳代、女性の10・20歳代で5割を超えている。（図5-5-2）

図 5-5-3 日常生活の不安や悩みの有無（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、「ある」は高齢家族がいない世帯が5割半ばで、高齢家族がいる世帯の5割より高い。

ライフスタイル別にみると、「ある」は独身（40～64歳）でほぼ7割、子どもあり（一番上が小・中学生）で6割を超え、独身（18～39歳）、独身（65歳以上）、子どもあり（一番上が小学校入学前）、夫婦/パートナーのみ（本人が18～39歳）で6割近くとなっている。「ない」は15～17歳で7割を超えている。（図5-5-3）

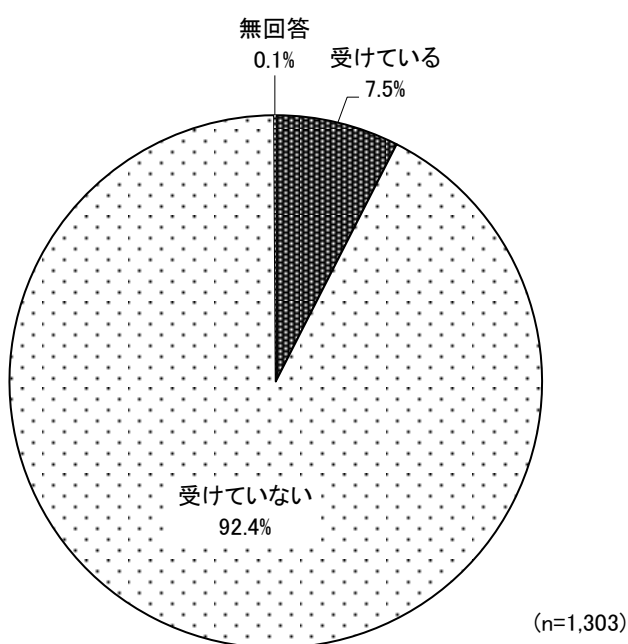
（６）行政機関や民間団体からの支援

◎「受けていない」が９割を超える

（問１６で「ある」と答えた方に）

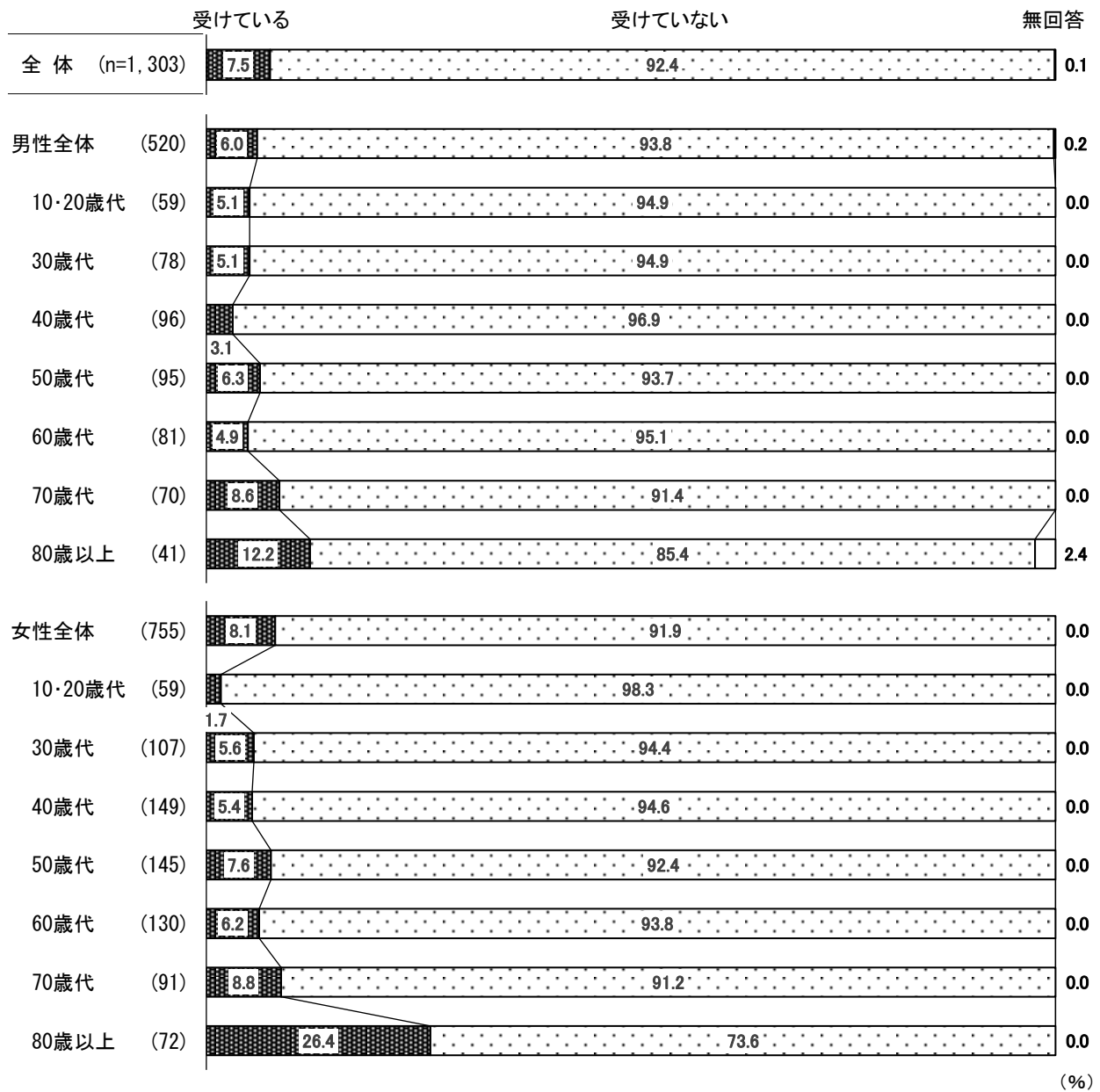
問１６－１ あなたは日常生活における不安や悩みについて、行政機関やＮＰＯなどの民間団体から支援を受けていますか。（○は１つ）

図５－６－１



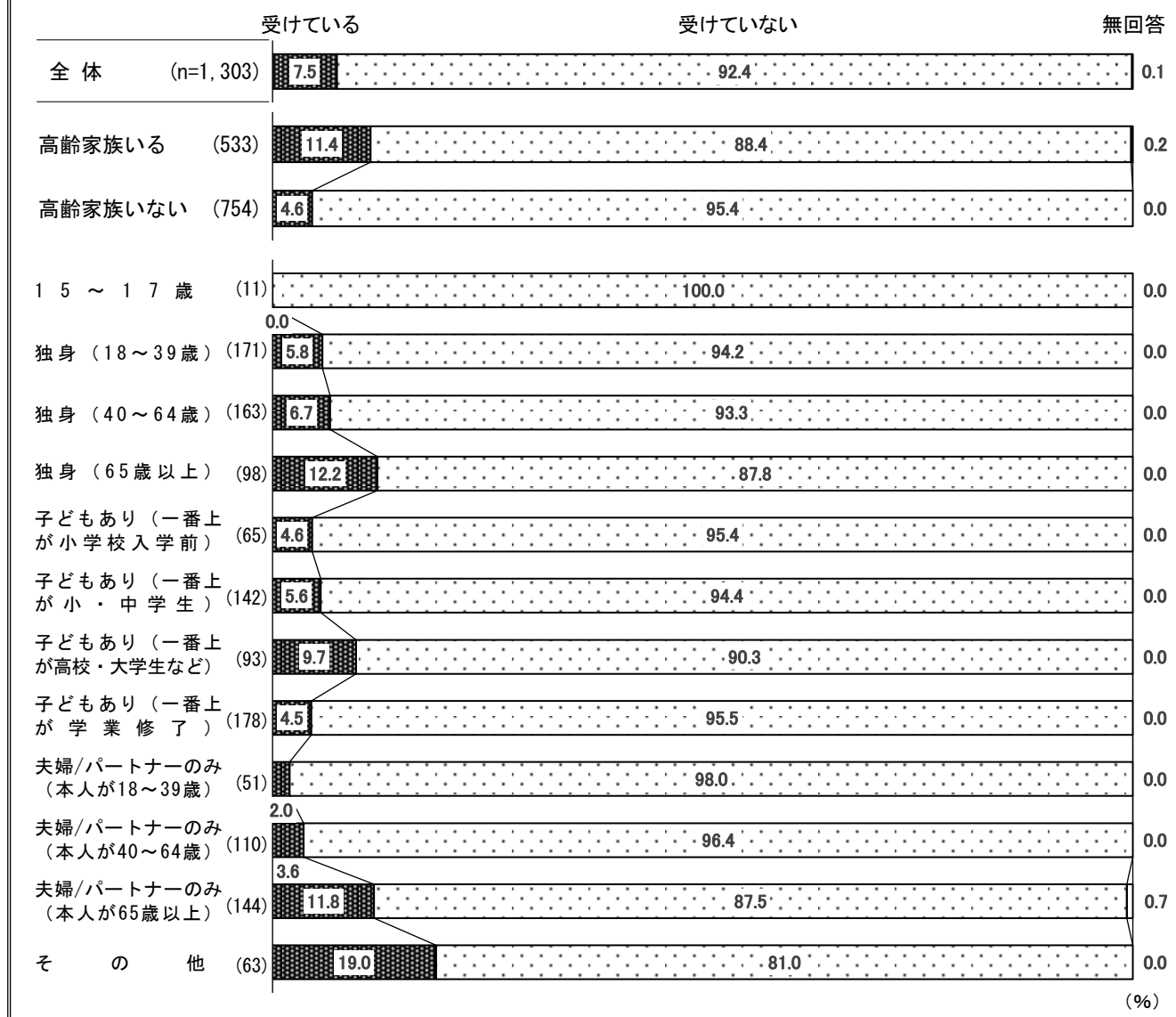
日常生活の不安や悩みが「ある」と答えた方（1,303人）に、日常生活の不安や悩みについて行政機関や民間団体からの支援を受けているか聞いたところ、「受けていない」（92.4%）が９割を超え、「受けている」（7.5%）は１割未満となっている。（図５－６－１）

図 5 - 6 - 2 行政機関や民間団体からの支援（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「受けている」は女性の80歳以上で2割半ば、男性の80歳以上で1割を超えている。70歳代以下は男女とも1割未満となっている。（図5-6-2）

図 5-6-3 行政機関や民間団体からの支援（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「受けている」が1割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフスタイル別にみると、「受けている」はその他でほぼ2割、独身（65歳以上）と夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で1割を超え、子どもあり（一番上が高校・大学生など）で1割となっている。（図5-6-3）

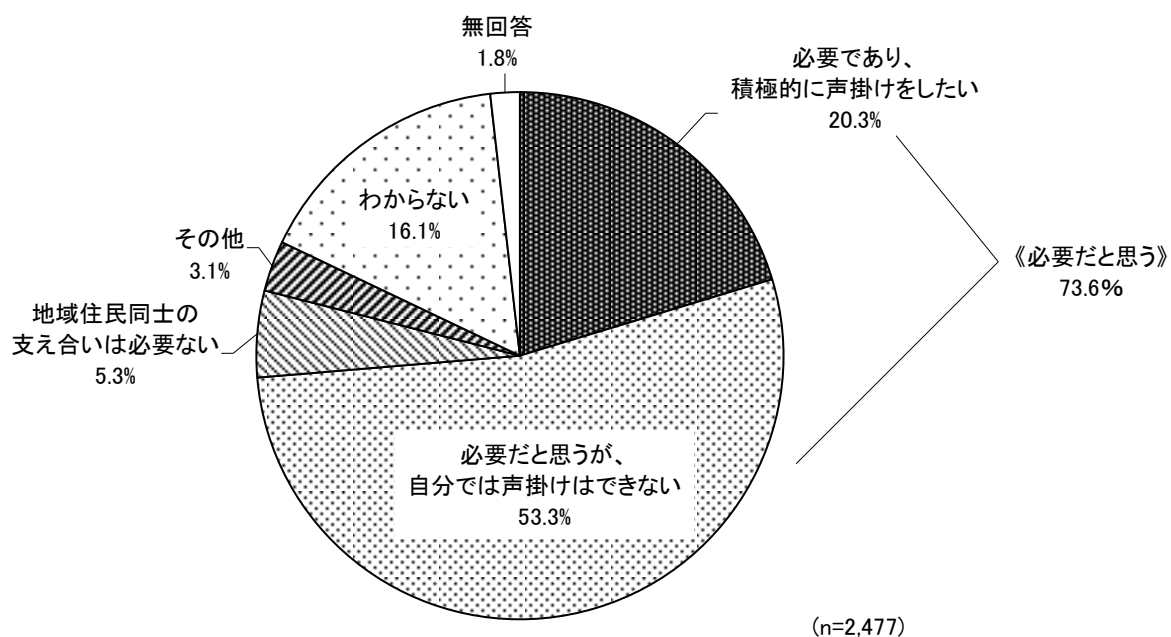
なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

（７）地域住民同士の支え合いについて

◎「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」が５割を超える

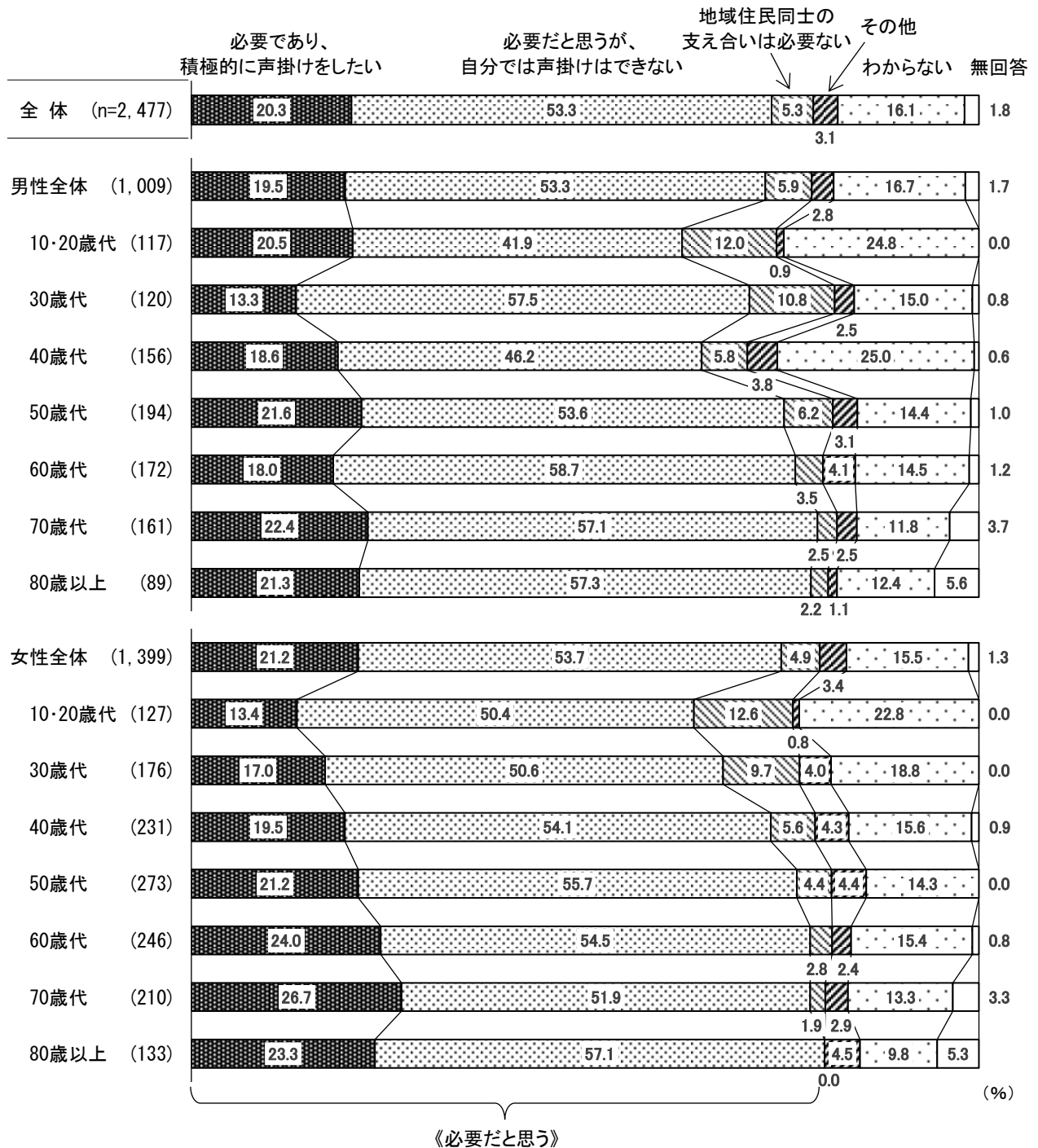
問１７ 不安や悩みを抱えている周りの人へ声掛けをするなどの地域住民同士の支え合いについて、最も近い考え方はどれですか。（○は１つ）

図５－７－１



地域住民同士の支え合いについて聞いたところ、「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」（53.3%）が５割を超えて最も高く、次いで「必要であり、積極的に声掛けをしたい」（20.3%）が続く。「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」と「必要であり、積極的に声掛けをしたい」を合わせた《必要だと思う》（73.6%）は７割を超える。（図５－７－１）

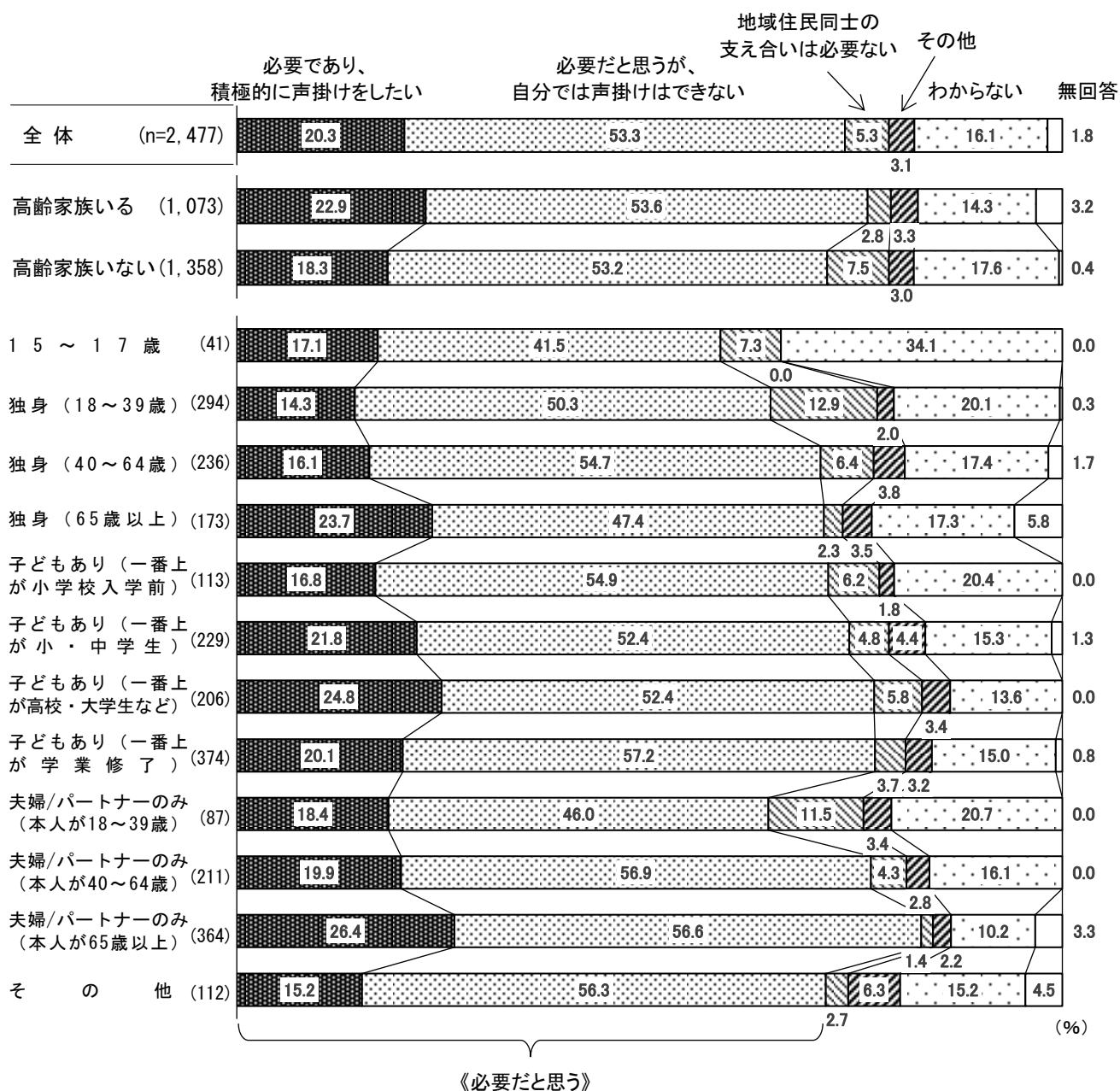
図 5 - 7 - 2 地域住民同士の支え合いについて（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「必要だと思う」は女性の80歳以上でほぼ8割、男性の70歳代で8割となっている。「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は女性の70歳代で3割近く、「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」は男性の30歳代と60歳代以上、女性の80歳以上で6割近くとなっている。一方、「地域住民同士の支え合いは必要ない」は男女とも10・20歳代で1割を超えている。

(図 5 - 7 - 2)

図 5-7-3 地域住民同士の支え合いについて（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



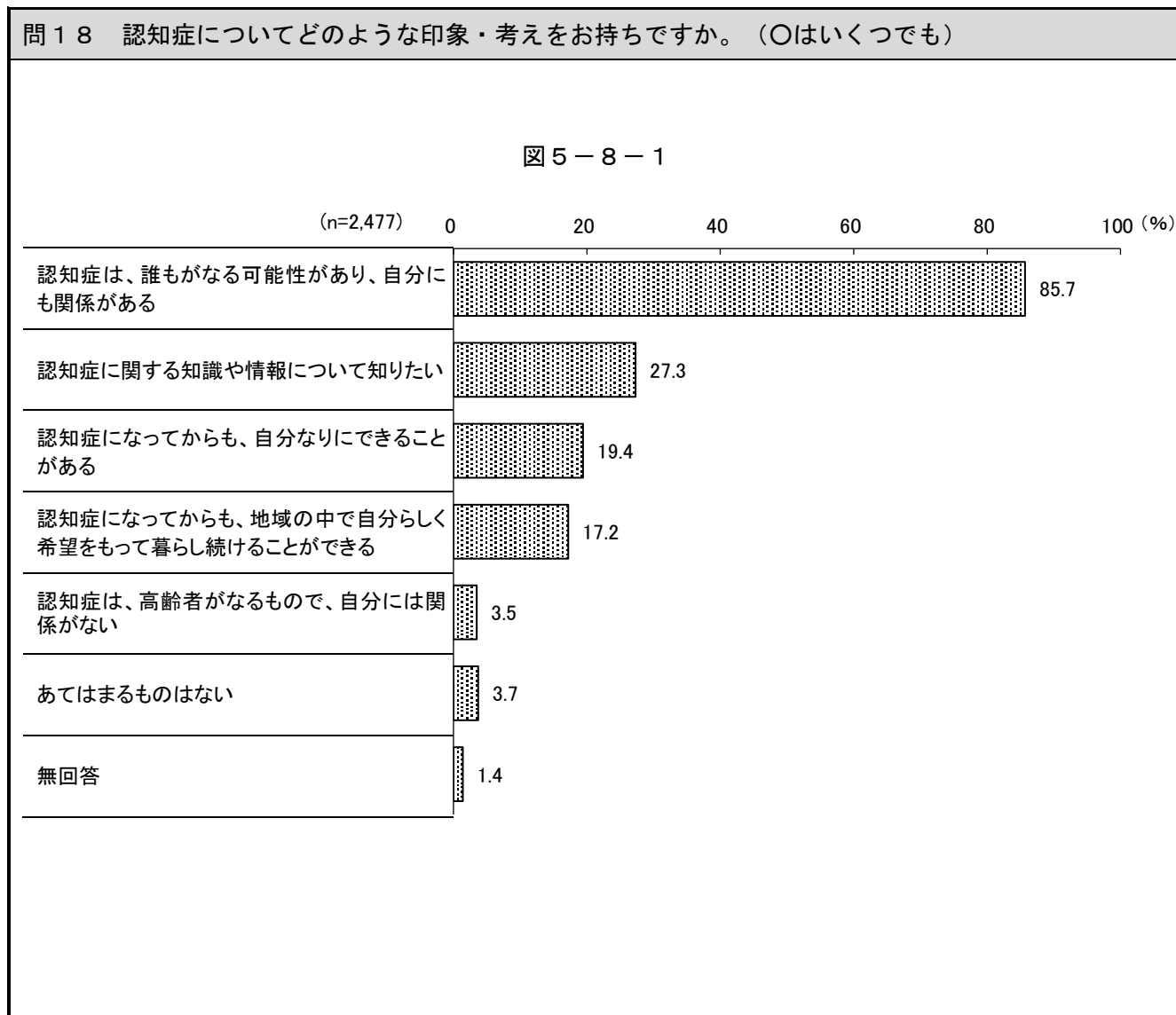
高齢家族の有無別にみると、「必要だと思う」は高齢家族がいる世帯が8割近くで、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフスタイル別にみると、「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は子どもあり（一番上が高校・大学生など）と夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で2割半ばとなっている。「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」は子どもあり（一番上が学業修了）、夫婦/パートナーのみ（本人が40～64歳）、夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で6割近くとなっている。

（図 5-7-3）

（８）認知症についての印象

◎「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」と考えている方が８割半ば



認知症についての印象・考えを聞いたところ、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」（85.7%）が８割半ばで最も高く、以下、「認知症に関する知識や情報について知りたい」（27.3%）、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」（19.4%）、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」（17.2%）などと続く。（図５－８－１）

表 5－8－1 認知症についての印象（性・年齢別）

		(%)							
		n	認知症は、 自分にも 関係がある 可能性があ	認知症に関 する知識や 情報につい て知りたい	認知症にな ってからも、 自分なり にできるこ とがある	認知症にな ってからも、 地域の中 で自分らし く希望をも って暮らし 続けること ができる	認知症は、 高齢者が なるもので、 自分には 関係がない	あてはまる ものはない	無回 答
全 体		2,477	85.7	27.3	19.4	17.2	3.5	3.7	1.4
性・ 年 齢 別	男性全体	1,009	84.2	23.4	16.4	14.5	5.0	4.7	0.9
	10・20歳代	117	59.0	21.4	8.5	9.4	19.7	12.0	0.9
	30歳代	120	82.5	14.2	7.5	11.7	7.5	7.5	—
	40歳代	156	85.3	23.1	10.9	12.8	5.8	5.1	—
	50歳代	194	87.1	23.2	16.5	12.9	3.6	2.6	1.0
	60歳代	172	91.9	20.3	22.1	16.9	0.6	3.5	0.6
	70歳代	161	90.1	29.8	22.4	19.3	0.6	1.9	1.2
	80歳以上	89	86.5	33.7	25.8	18.0	—	2.2	3.4
	女性全体	1,399	86.9	30.6	21.6	19.3	2.2	2.9	1.7
	10・20歳代	127	71.7	20.5	7.9	9.4	10.2	7.1	0.8
	30歳代	176	79.5	22.7	6.3	7.4	4.5	8.0	—
	40歳代	231	87.0	30.3	15.6	11.7	2.2	2.2	2.6
	50歳代	273	91.9	36.3	24.2	20.1	1.1	1.5	0.7
	60歳代	246	93.9	31.3	27.6	23.2	0.4	0.4	0.8
70歳代	210	90.5	31.9	34.8	29.5	—	1.4	2.4	
80歳以上	133	82.0	36.1	27.1	31.6	0.8	3.0	6.0	

性・年齢別にみると、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」は男性 10・20 歳代を除くすべての年代で 7 割台～9 割台と高い。「認知症に関する知識や情報について知りたい」は女性の 50 歳代と 80 歳以上で 3 割半ば、男性の 80 歳以上、女性の 60 歳代と 70 歳代で 3 割を超えている。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は女性の 70 歳代で 3 割半ば、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」は女性の 80 歳以上で 3 割を超え、女性の 70 歳代で 3 割となっている。（表 5－8－1）

表5-8-2 認知症についての印象（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）

(%)

		n	認知症は、 自分にも誰 も関係があ る可能性が ある	認知症に関 する知識や 情報につい て知りたい	認知症にな ることがあ るから、自 分なりにで きることが ある	認知症にな ってから、 地域の中 で自分らしく 希望をもつ て暮らすこ とができる	認知症は、 高齢者が なるもので 、関係が ない	認知症は、 高齢者が なるもので 、あては まるもの はない	無 回 答
全 体		2,477	85.7	27.3	19.4	17.2	3.5	3.7	1.4
高齢家族別	いる	1,073	88.7	29.4	24.5	21.3	1.4	2.4	2.1
	いない	1,358	83.5	26.0	15.2	13.8	5.2	4.6	0.7
ライフスタイル別	15～17歳	41	58.5	29.3	9.8	7.3	22.0	7.3	—
	独身(18～39歳)	294	73.5	19.7	7.8	10.2	9.2	9.2	0.7
	独身(40～64歳)	236	88.1	29.2	16.1	14.4	2.1	4.2	1.3
	独身(65歳以上)	173	87.9	24.9	22.0	19.1	0.6	1.2	5.2
	子どもあり(一番上が小学校入学前)	113	76.1	22.1	10.6	14.2	4.4	10.6	—
	子どもあり(一番上が小・中学生)	229	83.8	26.6	14.8	12.2	4.8	3.1	1.7
	子どもあり(一番上が高校・大学生など)	206	88.8	28.6	16.5	16.0	2.9	1.0	—
	子どもあり(一番上が学業修了)	374	91.7	27.3	25.1	19.5	1.1	1.1	0.8
	夫婦/パートナーのみ(本人が18～39歳)	87	80.5	13.8	4.6	8.0	14.9	4.6	—
	夫婦/パートナーのみ(本人が40～64歳)	211	89.6	29.9	26.5	19.4	1.9	2.4	0.9
	夫婦/パートナーのみ(本人が65歳以上)	364	93.4	34.3	29.7	27.7	0.3	1.1	1.6
	その他	112	83.0	36.6	25.9	18.8	—	6.3	1.8

高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「認知症になってからも、自分なりにできることがある」が2割半ば、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」が2割を超え、いずれも高齢家族がいない世帯に比べ高い。

ライフスタイル別にみると、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」は子どもあり（一番上が学業修了）と夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で9割を超え、夫婦/パートナーのみ（本人が40～64歳）で9割となっている。「認知症に関する知識や情報について知りたい」はその他で4割近く、夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で3割半ばとなっている。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で3割となっている。（表5-8-2）